

2021年 東進 第1回一橋模試 日本史 講評

出題分析		
試験時間 120分	配点 学部により異なる	大問数 3題
分量 (昨年比較)〔減少 同程度 増加〕	難易度変化(昨年比較)〔易化 同程度 難化 〕	
<p>【講評】</p> <p>今回の東進一橋模試では新傾向の「絵」は出題されず、従来の一橋日本史の形式が出題された。ただ、昨年の東進模試と同様に特に大問1についてはかなりボリュームが多い印象である。時代傾向としては、大問1は近世、大問2は近代、大問3も近代という構成で、戦後史は最後の問の一部にしか出題されなかった。これは現役生に配慮した形であると考えられるが、近世以降を重視する一橋日本史の傾向、また模試の時期が早いだけに、過去問どころかまだ通史が終わっていない現役生にとってはかなり厳しい戦いであったと思われるし、白紙も致し方ないと思う。難易度としては、大問1は単純に解答できる問題が少なく、社会状況や細かい知識を要する問題が多かったために「やや難」とした。「諸社禰宜神主法度」はあまり漢字で書けた人はいないのではないか。大問2は本格的な社会経済史であり、一橋日本史対策の真骨頂ともいべき問題であったが、これも過去問を説いた前提での話であり、過去問に手を付けられずに初見で説かなければならなかった現役生にとってはかなり難しかったのではないかと。ただ本番で出題されたらどの問題も解けなければいけないレベルである。難易度はほとんどが過去問からの出題であったが、問4が少し手間取るので「標準」とする。大問3は近代の政治史で、これも現役生には厳しかったのではないかと。1928年の治安維持法の改正はおさえておきたい。問2の「社会大衆党」はやや難。宇垣一成内閣の流産もやや難。問4は良問であるが、かなり解答に困る問題で、「政府と無産政党の関係」と「内閣総理大臣の選定方法の変化」を関連付けて論理的に説明するのは難しい。この大問の難易度は「難」。白紙の解答も多いと思われる。現役生はこの模試を本番の入試の可否判定には利用せずに、一橋日本史の出題傾向になれるという意味合いで捉えてほしいし、書けなくてもまったく悲観することはないと思う。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	島原の乱前後のキリスト教禁止政策/諸社禰宜神主法度/奈良時代から鎌倉時代にかけての神仏関係/江戸時代後期の都市社会に生じた変化/幕末の信仰・民衆運動	<p>大問1は近世以降の出題であった。来年の本番の大問1も、周期的に近世以降であると予想する。全体的には近世の政治史・社会経済史からまんべんなく出題された良問揃いであり、一部は古代からも出題された。問1…島原の乱(1637~1638年)前後の幕府のキリスト教禁止政策であり、何とかが現役生でも書けそうなレベルである。要素としては、「禁教令、スペインとの国交断絶・来航禁止、奉書船制度、中国・オランダなど外国船の入港を長崎に限定(島原の乱以前)」、「ポルトガル船の入港禁止、オランダ商館を平戸から出島に移す(島原の乱以後)」が挙げられる。また、絵踏や寺檀制度、寺請制度、宗門改めも含めてもよいと考える。標準。問2…「諸社禰宜神主法度」を漢字で書けたかどうかは分かれ目である。京大の問題も参考にしながら、日本史用語を漢字で書ける練習もしておくといい。標準。問3…古代中世の神仏関係で、「神仏習合思想」・「本地垂迹説」・「反本地垂迹説」をかけていけばよい。過去問では、1980年・1984年・2014年に既出。やや易。問4…都市社会に生じた変化を問うており、過去問でもあまり聞かれたことが無い側面である。ただ、江戸後期の社会的な動揺としては貨幣経済の進展・農村の階層分化が関わってくるため、それを軸として解答をつくる。「江戸時代後期には大店を構える豪商が町屋敷を集積し、それに伴って家持が減少することで町は共同体としての機能は低下し、農村の階層分化により困窮した離農者が都市に流入して裏長屋に住む貧民となり、天明の飢饉などの物価高騰時には打ちこわしの主体となっていた」。やや難。問5…幕末の信仰・民衆運動の展開を問うており、グラフから開国以降に打ちこわしが急増していることが読み取れる。開国に伴う原料不足や在郷商人の台頭による流通機構混乱による物価騰貴や農村の階層分化、万延金発行による物価騰貴への拍車、政局をめぐる抗争、為政者への不信などを背景として、貧農らによる「世直し一揆」、「攘夷運動」を挙げればよい。信仰としては、世直しを反映した「ええじゃないか」や「黒住教(黒住宗忠)・天理教(中山みき)・金光教(川手文治郎)などの教派神道を挙げればよい。幕末の攘夷運動については、1981年・1989年・1992年に既出。標準。</p>	やや難

<p style="text-align: center;">II</p>	<p style="text-align: center;">金融恐慌の展開 /石橋湛山/財閥 によるドル買い事 件/新興財閥と 規制財閥の相違 点</p>	<p>大問 2 は本格的な社会経済史であり、過去問を進めていた受験生にとっては書きやすかったであろう。問 1…金融恐慌について書く。これは 1927 年という年号から推察したい。金融恐慌の展開についてどこまでを範囲とするか迷うが、問題文からして内容と対処を書くだけでも良いと思う。端的に言えば、「20 年代の恐慌の際の救済融資で経済界の整理が遅れ、未決済の震災手形が多数残り、不良手形の決裁が進まず、銀行への信用不安が拡大したところに蔵相の失言が取り付け騒ぎを起こした」「若槻内閣の総辞職の後を受けた田中義一内閣により、3 週間のモトリアムを発して全国の銀行を一時休業させ、日銀から 20 億円近くの非常貸出しを行って恐慌を鎮めた」ということである。金融恐慌の社会的影響も考慮するならば、「大銀行へ預金に移ったことで中小銀行の休業・倒産が続出して銀行の整理・統合が進んだため、銀行数が減少した」を書けばよい。過去問では、1982 年・2001 年・2005 年・2018 年に既出。やや易。問 2…石橋湛山である。小日本主義の内容も聞かれることがあるため注意。易。問 3…イギリスの金本位制離脱後に、金輸出再禁止を見越した財閥によるドル買い事件（円売りドル買い）であり、財閥は円相場下落後に巨額の為替差益を得た。この結果、右翼テロが財閥支配を動揺させたため三井などは各方面へ寄付を行ったり持株の公開を行うなどの「財閥転向」により財閥への反感をそらそうとした。「財閥転向」は必ず押さえておくこと。易。問 4…良問。新興財閥と既存財閥の相違点は典型テーマであるが、あらかじめ触れておかないと容易には解答できないだろう。また、事業資金調達との相違点はやや難しいと思う。日産や日産などの新興財閥は、満州や朝鮮など植民地をターゲットとし、重化学工業を軸とし、株式公開により資金を調達していた一方で、既存財閥は国内外をターゲットとし、鉱山・金融・流通業を軸とした多角経営を行い、閉鎖的な同族経営による株式所有を背景とした一族内の内部資本を資金源とした。過去問では、1995 年に類題あり。</p>	<p style="text-align: center;">標準</p>
<p style="text-align: center;">III</p>	<p style="text-align: center;">三・一五事件と 1928 年の治安 維持法改正/社 会大衆党/宇垣 一成内閣の流産 と林銑十郎内閣 /無産政党勢力 と政府の関係お よび内閣総理大 臣決定のルール の変化</p>	<p>大問 3 が今回の模試で最も書きにくい大問ではないか。容易に解答できる問が無く、特に現役生にとっては「社会大衆党」や「宇垣一成内閣の流産」を書くのは酷だと思う。また、問 4 は今回の模試で最も難しい設問であり、苦戦したと思われる。現役生なら大問 3 を白紙で出す状態になっても致し方ないと思う。問 1…下線部(a)が、1928 年の選挙に言及しており、この選挙の際の日本共産党の活動への対処であるから、1928 年の田中義一内閣による三・一五事件や治安維持法の改正が考えられる。三・一五事件後には特高が全国の各都道府県に設けられた。治安維持法改正については「最高刑に死刑が導入」、「目的遂行罪の新設」を書く。また、この改正の問題点も押さえておきたい。「改正は緊急勅令を用いて行われたが、その発令権は議会の協賛なしに行使できる天皇大権のひとつであり、議会軽視と批判された」のである。過去問では、1999 年に既出。標準。問 2…社会大衆党。無産政党の離合集散は煩雑であるため資料集などを利用して覚えておこう。やや難。問 3…広田内閣総辞職後、軍部ファシズムに批判的であったために軍事統制を期待された陸軍穏健派の宇垣一成内閣が、反対する陸軍の陸相推挙拒否によって不成立に終わった。当時、広田弘毅内閣によって軍部大臣現役武官制の「現役」規定が復活していた。現役武官の行動・人事は統帥権に関わり内閣も関与できないため、軍部大臣現役武官制によって組閣に軍の合意を要し、軍部大臣辞職により倒閣も可能であった。後継は林銑十郎内閣となった。やや難。問 4…今回の模試で最も難易度が高い。基本的には加藤高明内閣以降の「憲政の常道」の基盤となった政党政治が、ドル買い事件などでの政党への不信任やテロを背景として、五・一五事件により終焉し、軍国主義の台頭により無産政党は受難の時代になり、弾圧も受けながら最終的には政府による戦争に協力するために解党した。明治憲法では議院内閣制が規定されておらず、政党は首相推挙権を握った元老に迎合せざるを得ず、さらに天皇に直属する枢密院や陸海軍の協力がなければ政党内閣は存続しなかった。戦後の日本国憲法では議院内閣制が採用され、首相は国会で選出されるようになり政党政治は復活し、無産政党からは日本社会党が結成された。難。</p>	<p style="text-align: center;">難</p>